

「瓦版」



2025. January. 1
在仙台カンボジア王国名誉領事館

No.21

クメール正月

カンボジアの人々はよく、「年に 3 回正月が来る」という。1 月 1 日のインターナショナルニューイヤー、2 月頃の旧正月、そして 4 月の半ばのクメール正月である。その中でも本家本元「クメール正月」は、古代から現在まで受け継がれるクメール人の新年を祝う行事で、古来からのクメール人の信念や習慣、伝統に基いたものである。

カンボジアで稲刈りなどの農作業が済んだ毎年 4 月の半ば、3 連休のクメール正月がやってくる。乾季の最も暑い時ということもあって、カンボジアの人々は新年に合わせて長期休暇をとって身体を休める。プノンペンでは人の影がすっかりなくなり閑散とするが、正月を祝うために故郷へ帰省した人々は、一年間の仕事の疲れを癒すために色々な過ごし方をしているようだ。

新年の儀式

新年の儀式は 3 日間行われる。1 日目はモハー・ソクラン、2 日目はボナバット、3 日目はラウンスックと呼ばれ、旧年が終わり、新年の女神が降臨して旧年の女神と交代する日時の決定は、カンボジアの宮内庁が古代の占星術を利用した占いにより定めている。

【1 日目 モハー・ソクラン】

降臨してくる女神をお迎えして幸福を授かるために、大掃除をして自宅の正面玄関に供え物を置くテーブルを設置し、さまざまな装飾品や色とりどりの照明を施す。お供え物は綺麗な水とお花を入れる瓶や器、キャンドル 5 本、線香 5 本、ココナツの実、飲み物、ケーキ、果物などをテーブルに盛り付ける。新年の女神様が降臨する時刻になると、家族揃ってお供え物のテーブルの前でお祈りをする。



宮内庁の占いにより、年によって新年を迎える時刻が異なる。2023 年は 4 月 14 日の午後 16 時 00 分に新年の女神様が降臨したのに対し、2024 年は 4 月 13 日の夜 22 時 17 分に新年の女神様が降臨するとされていたので、家族揃って深夜まで待機した人も多かったようだ。

女神様は 7 人姉妹で、それぞれ身につける花や食べ物、持ち物が違う。

名前	花	食べ物	持ち物 (右手)	持ち物 (左手)	乗り物	曜日
トゥン・テヴィ	ザクロ	イチジクの実	円盤	カタツムリ	ワシ	日曜日
コラック・テヴィ	コルクノーゼン	油	刀	杖	トラ	月曜日
コラクサ・デヴィ	蓮	血液	槍	弓	馬	火曜日
マンダ・デヴィ	プルメリア	ミルク	針	杖	ロバ	水曜日
ケレネイ・テヴィ	モクレン	大豆とゴマ	象の突き棒	鉄砲	象	木曜日
ケメレア・テヴィ	スターロータス	甘いバナナ	刀	琴	水牛	金曜日
モホー・テリア・テヴィ	ホテイアオイ	肉	円盤	槍	クジャク	土曜日

【2日目 ボナバット】

ボナバットは祭りの日と呼ばれ、この日は人々が寺へ僧侶にお金や食べ物などを持参して参拝する。祖先のために僧侶に寄進をし、お経を唱えてもらうのである。全国各地の寺はどこも参拝する人で賑わっており、その中で普段とは違う儀式が行われているのが目に付く。寺の敷地内に砂山を造り、お線香やお花をもってお祈りし、お布施をする儀式である。

「昔々、砂で汚れた怠け者の男がいた。若者は毎日砂の山に通っていたので、砂で常に体が汚れていた。ある日、インドラ神がその砂で汚れた若者の奥さんとなるように一人の女神を送った。結婚して以来、女神は砂で汚れた若者の身体を毎日洗い、身の回りの世話をした。そのお陰で、砂で汚れた若者は以前よりはるかに格好が良くなった。女神の真摯な態度に感化され、砂で汚れた若者は人格も優れていき、村の人々に知られるようになっていった。ある日、この話を知ったある将軍が、砂で汚れた若者に会いたいとやってきた。その国を支配した王が急病で亡くなり、国を統治する後継者をこの将軍が探していたのである。将軍は若者と女神にその国の統治をしてほしいと要請した。それ以来、砂で汚れた若者が国王になり、その国を統治していった。」



このような伝説をもとに、砂山を造ることが様々な福に恵まれる行為であると信じられているようになった。特に、正月に寺の敷地内で砂山を造る儀式が行われ、多くのクメール人が砂山造りの儀式に足を運び、砂山から新年の幸福を授かろうとお祈りをするのだという。

この日の夕方になると、寺や家の敷地内にチャオル・チューン（布を投げる遊び）、ハンカチ落とし、土鍋を砕くなどといった伝統のゲームを遊んだり、クメールの民謡・歌を流して踊ったりする。地域によっては大規模な水かけ祭りをを行い、大勢の若者が集まる水かけのイベントがある。イベント参加者が互いに水やベビーパウダーかけをする他、グッズや飲食の販売ブース、ゲームエリア、クメール伝統音楽にあわせた踊りなど、正月の楽しい時間を過ごす。



【3日目 ランサック】

この日は、新年の幸福を改めて祈るために寺の仏像を水で清める儀式が行われる。旧年の災い、不幸、不運などを洗い落とし、新年の幸福を呼び寄せるという意味があるという。

1年の生活の中で、人生には不幸や不運、悲しみ、病や自然災害などに遭遇する。そのため、そのような不安や不幸なことを払い落とすという意味を込めて、新年を迎えて気持ちを改めている。新しい服を身に付けて、新年の幸福や繁栄など得るために新年の女神様を丁寧にお迎えするのである。

冬の宮城を楽しもう！

◎宮城の温泉

寒い冬の時期になるとあったかい温泉が恋しくなりますよね

宮城県は実は温泉の宝庫！ 多彩な泉種が魅力の鳴子温泉や「日本三大御湯」にも数えられる秋保温泉、雄大な蔵王の自然を楽しめる遠刈田温泉など、県内様々な地域に温泉が点在しています。



◎宮城のグルメ

宮城の鍋と言えばセリ鍋！

セリは宮城県が生産量全国1位を占める伝統野菜です。セリ鍋では、そんな宮城の誇るセリを根っこまで味わえます。葉、茎、根っこで異なる味わいと食感をお楽しみください。

和風出汁のしょうゆベースが基本ですが、出汁や具材はお店によって様々。是非お気に入りのお店を探してみてください！



◎宮城の酒

国内有数の米どころである宮城県では、酒造りも盛んに行われています。

県内に24ある酒蔵では、その地域の自然や文化を背景に特色のある酒造りがおこなわれています。

食材王国みやぎが誇るグルメと宮城で作られた日本酒の相性は最高！

是非、県内の各地域を巡っていただき、その土地の食と酒のマリアージュをお楽しみください！



その他にも、冬の宮城には魅力がいっぱい！

温泉もグルメも楽しんで身も心もポカポカになりましょう！

仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会では、令和7年3月31日まで「2024 年秋・冬観光キャンペーン」を開催中です！

特設サイトでは県内の秋・冬季のおすすめスポット等を掲載していますので、是非ご覧ください。



本記事は宮城県経済商工観光部観光戦略課が在仙台カンボジア王国名誉領事館との交流拡大に向けた取組の一環として寄稿しています。